

第3回黒部川水系流域委員会 議事要旨

【開催概要】

■開催日時：令和5年10月24日 14時00分～16時00分

■開催場所：富山県民会館

■出席者：委員長、委員8名（11名中9名出席）

■議事次第

1. 開会

2. 出席者の紹介

3. 議事

(1) 第2回黒部川水系流域委員会（令和4年4月20日開催）の概要

(2) 黒部川で近年顕在化している課題について

(3) 黒部川水系河川整備計画 変更骨子（案）について

(4) 今後の進め方について

4. 閉会

【議事要旨】

(1) 第2回黒部川水系流域委員会（令和4年4月20日開催）の概要（資料1）

[委員G]

資料6ページに、全国の川で起きていることの1つとしてとあるが、川によって異なると理解している。全国の川でそうだと誤解されるため、この文章を削除するか、黒部川で起きていることの1つとして修正した方が良い。

[委員長]

気候変動に関するご意見の四行目のアンダーライン引いてあるところで、川を上手に動かしながらとあるが、それは非常に難しい。ご意見をいただいたことは川を上手に維持管理しながらということではないか。

[委員G]

河道の中の流砂環境が止まらないように、継続的に土砂が動いていくという趣旨である。もう少し言葉を補足したほうがよいかもかもしれない。

[委員長]

事務局で委員と相談のうえ修正いただければよい。

(2) 黒部川で近年顕在化している課題について（資料2）

<急流河川対策関連>

[委員A]

縦工の計画は平成の初めの状況をもとにして配置等が決められている。5, 6ページに、シミュレーション結果が示されており、新たに未整備箇所新しく水衝部が発生

していることを確認したことは大事であると同時に、計画時と比べてどのように変わってきたのかを確認することも大事である。

もう1点、小規模流量で長時間発生した場合の問題に触れているため、ピーク時のみならず、その時間変化も見ていかなければいけない。

また、2,000m³/s以上の大きな流量に対しては縦工で、それより小さな流量に関してはどうやっていくかを議論していくとの解釈でよいか。

[事務局]

1点目について、過去の状況のみお筋などの変化も確認していく。2点目について、平成29年7月の波形を踏まえてシミュレーションを行っている状況であるが、どのような状況となっているかを確認する。

3点目は、これから説明する資料3の7ページに整理している。例えば、流量規模が小さい場合は礫河原再生や河道整正と、巨石付盛土砂州の整備による河岸防護と澁筋の整正などを考えている。

[委員長]

私からも1点補足させていただく。縦工の設計では、2,000m³/sぐらいの低水路満杯流量を考えていて、それより大きい流量に対しては、しっかりした堤防で守ろうと考え方であった。それから川もかわってきて、小さい流量に対してもいろいろなことが起こってきている。黒部川は大きい流量や小さい流量に対しても怖い面があるため、川の動きをよく見ながらやっていくことになると思う。

[委員F]

資料10ページの課題①に、補足した方がわかりやすい。1行目の「みお筋の固定化と比高差拡大等により」の後に「樹林と安定した」を補って、2行目の「急流河川特有の攪乱と再生が繰り返される」の後に、「頻度が減少し」という言葉を補った方がよい。

[事務局]

ご指摘箇所について資料に反映させていただく。

<河道内の土砂移動関連>

[委員長]

大きい流量で高水敷に水が乗ったら高水敷に細かい土砂が溜まるため、洪水後に宇奈月ダムから水を流して高水敷にたまらないようにして、植生が繁茂しないようにコントロールするという考えがあったと思うが、その流量はどれくらいで、どのくらいの時間流しているのか。

[事務局]

水防団待機流量の550 m³/sよりも少ない流量で3時間程度を流している。

[委員G]

洪水調節をしているステージではまだ排砂ゲートが開いていないので、非常に細かい土砂だけが出ていて、その細かい土砂が高水敷にたまる。その後、排砂ゲートが開

いて自然流下になった場合には、流量が少なくなるため、高水敷が冠水しなくなる。そのため、高水敷では細かい土砂がたまっていき、樹林化の問題に関連するという1つの仮説がある。

[委員長]

データをしっかりと見極めながら管理につないでいく必要がある。本日の資料にはそのような内容がない。今後大事になると思うため、しっかりと勉強しながら検討する必要がある。

[委員 G]

大きな洪水が起こった時には、その一つ前、あるいはもう一つ前の排砂の際に流出した土砂が河道にあり、それが2次移動、3次移動というように、河道の中で土砂が動いていくことになる。それが河道にどのような変化をもたらすのかということを追跡することが大事である。

[委員長]

土砂についても、各領域での課題解決のために、流域の土砂収支を明らかにするための検討を進めるとあるが、検討することがすごく大事である。

<霞堤関連>

[委員 E]

霞堤について、2ページでは比高差が大きくなって、霞堤に流量が入りにくくなっているとあるが、8ページでは開口部から氾濫が起きることが問題としている。霞堤について、どのくらいの流量に対してどのような機能を期待しているのかクリアにしたほうが良いのではないか。

[事務局]

8ページ目にあるように、大規模な流量に対して氾濫水を河道に戻す機能を期待している。このあとの資料3では、現行整備計画河道配分、流量5,200 m³/s以上の計画高水流量をターゲットにした形で、霞堤の機能を維持して行きたいと考えている。

[委員 E]

そうすると、2ページ目の霞堤に流量が入りにくくなっていることは、あまり問題にならないと思われる。

[事務局]

ご指摘を踏まえ、記載内容については資料3との内容と併せて検討する。

[委員 A]

霞堤について、昔と今では周辺状況が全然違っており、求められる機能が変わってきていると思う。そのような観点も含めて、検討する必要がある。

[委員長]

霞堤の問題はとても重要である。他の河川では1度も使われていない河川もあり河川によって霞堤の重要度は違ってくる。今回の整備計画では、気候変動で流量が増え

た時に大事になってくるので、今後、整備計画の中でしっかりと考えていく必要がある。

[委員 D]

資料 1 の 7 ページ目で霞堤の土地利用まで言及をしているが、霞堤の機能確保の中では土地利用については特に言及をしていない。霞堤自体はどのように使われて来たのかという文化を継承していることも考えると、土地利用のことについても言及したほうがよい。

[事務局]

現在、顕在化している課題ではなかったため省略していたが、資料 3 の骨子案にいただいたご意見を反映している。

[委員長]

黒部川の扇頂部に位置する愛本堰堤や愛本床止めは、黒部川の氾濫域を制する場所に位置しており、大きい流量が発生した場合に、コントロールする重要な役割を担っている。愛本堰堤については、将来に向けて維持や構造も含めて管理することが重要であるが、この書き方では記載内容が不足していると感じる。以前の整備計画の時から大事と発言してきたが、本格的に議論はされてない。事務局でこれについて何か考えがあれば教えていただきたい。

[事務局]

愛本堰堤は黒部川の中でも非常に重要な位置付けの施設であるため、今後、議論を進めていきたいと考えている。

(3) 黒部川水系河川整備計画 変更骨子(案)について(資料3)

<総合土砂管理関連>

[委員 G]

11 ページの総合土砂管理について、上流の砂防とダムとの排砂の関係をこれからどう考えていくのが大事な視点である。黒部川の場合は排砂の取り組みを行っているため、上流の砂防ですべて土砂を止める必要はなく、下流のダムの排砂で対処できるようなレベルで土砂を通過させることが重要である。砂防で何をするのか、ダムで何をするのか、ダムから出た土砂が河道から最終的に海岸までどのようにバトンパスをしていくのかを全体をつなぎあわせる必要があるが、それを一気に議論するのはなかなか難しい。少なくとも砂防とダムは連携したほうがよいと思う。また、下流に供給しなければいけない大きな粒径の土砂があると思うが、それよりも大きな粒径で宇奈月ダムを通過させることが難しいものは、砂防で止めることも考えられる。今まで構築されてきた黒部川の総合土砂管理の知見をどう生かして行くのかについて、少し踏み込んでもよいと思う。

<急流河川対策関連>

[委員長]

頻度の高い洪水に対する洗掘対策について、さらに大きい流量の洪水が発生する可能性があることを意識すべきである。6 ページの堤防の整備について、高水敷まで水位が上昇して現行の整備計画流量が流れた場合、現在の堤防で大丈夫なのか。根継ぎ護岸などは低水路に対して行う対策だが、流量 3,000 m³/s を超えた時には、堤防で守るしかない。それに対して急流河川対策のみで堤防が持つと考えているのか。

[事務局]

高水敷より水位が上がってくると、かなり洪水のポテンシャルが上がってくると考えている。このような外力に対する堤防の対策について今後検討していく。

[委員長]

基本方針の流量までつながる話であるため、整備計画の変更を行うこの時期にしつかりと検討する必要がある。大流量の洪水が発生する可能性を踏まえ、それに備える準備を今からやらなければいけない。愛本堰堤についても大きな流量に対して、計画的にどのようにしていくのかが見えない。

[事務局]

ご指摘を踏まえ、大流量の洪水への対応について検討を進めてまいりたい。

<流域治水関連>

[委員 C]

13 ページの避難情報に着目したタイムラインについて、どのくらいの流量に対してタイムライン案を示す予定か、教えていただきたい。

[事務局]

黒部川の水系全体として、これまで市町村単位でタイムラインを作成している。例えば台風が来る 3 日前から、どのような行動を取れば住民の皆様が無事に避難できるのかについて、自治体も含めて時系列の流域タイムラインを検討し周知していく。

[委員 B]

本日の資料では、農村や農業用の排水を受けている霞堤の土地利用について言及されており有難く思う。農業者団体としても協力していきたい。

[委員長]

大きい流量に対して役割を果たす霞堤が、小さい流量も含めて効くように見えるため、そのようなあいまいなところを書き分けるよう資料の修正をお願いしたい。

[委員 G]

13 ページの今後の検討事項について、氾濫を出来るだけ防ぐ減らすための対策としてダムのこと言及されている。黒部川は、宇奈月ダム以外は電力ダムであるため、どのように協力関係を築いて、流域治水を実現して行くのかということが非常に大きな課題である。全国的に電力ダムにかなり治水的な機能を期待する水系もあるため、

その中で黒部川ではどのような方向性を考えていくのかが重要である。

<河川環境関連>

[委員 H]

河川環境の目標案について、日常的に黒部川の魅力を発信する意味では、やすらぎ水路は大変重要な場所となる。地域の活性化や地域づくりの役に立つと考えられるため、希少種がたくさんいるとか、バードウォッチングができるとか、昆虫採集ができるとか、さまざまな形で活用していただきたい。例えば学校の授業や大学の学習でも活用できれば、黒部川の魅力や愛着にもつながると思うので、たくさんの機能をここに加えていければよいと考えている。

[委員長]

黒部川環境は先進的な取り組みが行われている。委員のご発言のとおり、この黒部川の魅力を発信していただきたい。黒部川はポテンシャルが高く、いろんな試みをやっているので、教育や子供達につながることを含めてお願いしたい。

<気候変動を踏まえた治水計画の見直し関連>

[委員長]

委員のご意見について整備計画に反映して頂くことに加えて、大きい流量への対応について整備計画の中で非常に強く意識していることを示す必要がある。整備計画流量に対しては20年の中でしっかりと段階を踏んで行く必要があるが、その先の気候変動に向かって何を今から準備しなければいけないかを整備計画に書く必要がある。

[事務局]

現在直面している課題のみに着目するのではなく、並行して気候変動を踏まえた河川整備の見直しに向けた検討を進めていく前提で、今後も委員会で議論いただきたいと考えている。

<次回委員会関連>

[委員長]

本日委員会で各委員よりいただいたご意見を踏まえ、次回第4回の委員会では整備計画の本文まで提示されることについて、承知した。

(4) 今後の進め方について (資料4)

今後の進め方について各委員了承。

以 上